

「まちノート～みんなの足あと～」による中心市街地活性化への試み

信州大学	正会員	○高瀬 達夫
NEXCO 西日本	非会員	小倉 良介
信州大学	正会員	小山 健

1. 「まちノート～みんなの足あと～」プロジェクト

現在、全国各地で市民組織・NPO 団体を主導に中心市街地問題やまちづくりに向けたさまざまな情報提供が行われている。現在最もポピュラーなのは、インターネットの HP 上での情報局や地域かわら版の発行などがある。これらの手段はまちの情報をより多くの人に早く知ってもらうことができるが、情報提供者・発信者・受信者へと情報が一方通行になりがちであり、さらにインターネットの知識がない人やそれらの事業の存在を知らない人にとっては情報を発信したり、受信したりすることができない。また、まちづくりワークショップやまちづくり集会なども住民の意見や思いを集める良い方法であるが、これらの集まりはまちづくりに興味があるほぼ固定された人が多くなりがちで、その他大勢のまちづくりに興味を持っていない人達の意見を集めることはできないうえ、興味の促進につながることも少ない。

「まちノート～みんなの足あと～」プロジェクトは、中心市街地の魅力を紹介するイベントや街について語り合う会などを企画し、楽しく継続できるまちづくりのきっかけ作りを目的とした長野市民有志らによる任意団体「ながのまちづくりカフェ」が実施し、愛・地球博（2005 年日本国際博覧会）の市民プロジェクトのひとつ「漂流日記～旅するノート～」の手法を用いて、多くの人に楽しく長野のまちや暮らしについて考え関心を持ってもらうこと目的に、平成 18 年 4 月から行っている活動である。なお本プロジェクトは、長野市が行っている「ながのまちづくり活動支援事業」に平成 19 年度、20 年度と選ばれており、継続的かつ拡大的に進められている活動である。具体的には図 1 に示した「まちノート（B6 版、40 ページ程）」に書かれたテーマに答えて次の人に渡すというように、リレー形式で人の手から人の手へ自分の意見も書きながら、他の人の情報も見ることができるものとなっている。毎



図 1 まちノート

年約 100 冊のノートを出発させており、平成 20 年 9 月現在 264 冊のノートが出発し、そのうち 47 冊が帰還している。

「まちノート～みんなの足あと～」の特徴は、まず情報網が一方通行になっていないことが挙げられる。つまり、まちノートを受け取った人全てが情報発信者（ノートを書く）であり、同時に受信者（ノートを読む）でもある。次に挙げられるのが、情報交換の気軽さである。インターネットの知識や会員登録などは一切不要で、ノートを読んだり、書いたりするだけでいいので子供から高齢者まで幅広く情報を共有することができる。さらにまちノートを受け取る時は概ね、家族や友人、同僚、近隣の方など身近なところから回ってくる。そのため、ノートが回ってくることで、例えばそのテーマに興味がなかったとしても、ノートに書かれた身近な人々の意見におのずと目が向け易いといったメリットが考えられる。さらに一部のノートは地元企業や中心市街地の商店等に協賛して頂くことにより、宣伝効果を持たせることも可能となっている。

2. 中心市街地活性化対策としてのプロジェクトの有効性に関する分析

中心市街地活性化のための対策として「まちノー

キーワード 中心市街地活性化, 情報伝達, まちづくり

連絡先 〒380-8553 長野県長野市若里 4-17-1 信州大学工学部土木工学科 TEL 026-269-5307

トを行った。アンケート調査は、まちノートを受け取ったことのある人に対して、まちノートに期待される効果として可能性のある7項目について5段階評価してもらった。アンケートは30名に配布したが、すべての項目が記入されていた有効回答者数は22であった。アンケート結果を用いてまちノートに期待効果として可能性のある7項目と平均評価結果を表2に示し、さらに主成分分析結果を表3および図2に示した。なお、主成分分析における寄与率は第1主成分が44.6%、

表2 期待効果項目と平均効果得点

	項目	平均点
No.1	まちノートを利用した地元企業や商店などの宣伝効果	3.4
No.2	まちノートを利用した地元商店や商業施設の連携・サービスの向上促進効果	3.6
No.3	まちノートによる地域住民同士の交流促進効果	3.5
No.4	まちノートによる情報発信・情報共有促進効果	3.9
No.5	まちノートプロジェクトによるまちづくりに対する地域住民の興味や関心の促進効果	4.0
No.6	まちノートプロジェクトによる観光資源の発見・整備の促進効果	3.7
No.7	帰ってきたまちノートを利用したまちづくりへの活用効果	4.2

表3 主成分得点

	第1主成分	第2主成分
No.1	0.54	<u>0.75</u>
No.2	<u>0.79</u>	0.049
No.3	<u>0.71</u>	<u>-0.61</u>
No.4	<u>0.68</u>	0.031
No.5	<u>0.85</u>	-0.030
No.6	0.55	0.087
No.7	0.37	0.039

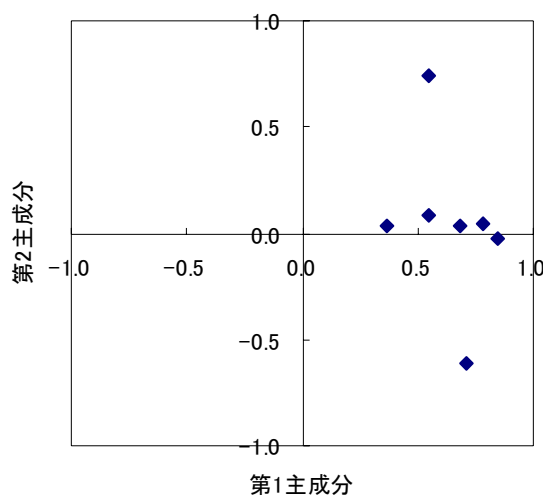


図2 主成分得点のプロット図

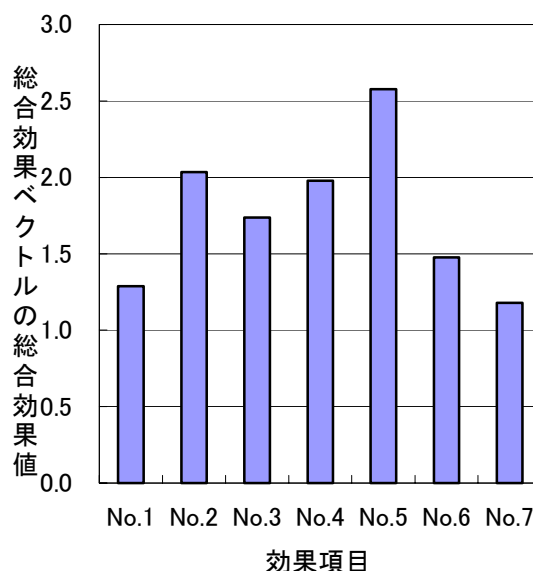


図3 期待される考課項目の総合効果値

第2主成分が17.3%で第2主成分までの累積寄与率は61.9%となっている。

表3中で下線を記した絶対値が高い値に着目すると、第1主成分は情報・魅力の共有・伝達効果、第2主成分は宣伝効果と読み取れる。さらに表6中の平均効果得点を効果得点行列とし、表3中の第1主成分得点を効果重要度ベクトルとすると、この効果重要度ベクトルと効果得点行列の積を総合効果ベクトルと表すことができ、その結果を図3に示した。これらの結果は「まちノート」プロジェクトはまちづくりに対する地域住民の興味や関心の促進や情報発信・情報共有促進に関する効果が高いことを示している。

3. まとめ

本研究では、中心市街地活性化のためにはまちの魅力や情報を伝えることが重要であるのではないかと考え、現在長野市で行われている「まちノート～みんなの足あと～」プロジェクトに着目し、その効果についての研究を行った。

その結果、まちの魅力や情報を伝えて周辺地域にすんでいる人々の興味を引くような対策として「まちノート」が、有効であることがわかった。

また本研究では「まちノート」に関して市民参加型の情報共有・伝達手段としての一面のみを取り上げたが、今後本プロジェクトが継続的に行われていくことにより蓄積されていくまちの情報を有効的に活用する方策を考えていく必要があると思われる。